

題目 短歌を讀む

※ 答えは、別紙の解答らん<sup>たうたうらん</sup>に書き入れなさい。

1  
40

次の短歌を読んで、後の問いに答えなさい。

- A しらしらと氷かがやき千鳥なく釧路の海の□の月かな  
B 絵日傘をかなたの岸の草になげわたる小川よ□の水ぬるき  
C ほほづきを口にふくみて鳴らすごとかはづは鳴くも□の浅夜を  
D 稲刈りてさびしく晴るる□の野に黄菊はあまた目を開きたり  
E この山はたださうさうと音すなり松に松の風椎に椎の風  
F 夜々の霜をはじきて伸びゆくか冬の小草のひとかたまりは  
G あたらしく冬来たりけり鞭のごと幹ひびきあひ竹群はあり

石川 啄木  
与謝野 晶子  
長塚 節  
長塚 節  
北原 白秋  
木保 修  
宮 柁二

問一 ④ A S Dの短歌のそれぞれの□にあてはまる季節を、漢字一字で答えなさい。

問二 ③ Aの短歌の「しらしらと」という表現から感じられる様子として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア さわやかな様子。      イ 寒々とした様子。      ウ たくましい様子。      エ おそろしい様子。

問三 ③ Bの短歌は、五感のうちのごとの感覚で季節の訪れを感じとっていますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 視覚(目)      イ 聴覚(耳)      ウ 嗅覚(鼻)      エ 味覚(舌)      オ 触覚(皮膚)

問四 ④ Cの短歌で「かはづ」の鳴く声は何にたとえられていますか。「う音」に続くように、短歌中からぬき出して答えなさい。

問五 ④ Dの短歌について、次の問いに答えなさい。

- 1 「あまた」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

問六 ④ Eの短歌で「さうさう」とは何を表しますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 山を吹きぬけていく風の音。      イ 山で小鳥がさえずる音。  
ウ 山あいを流れる川の音。      エ やまびこの返ってくる音。

問七 ④ Fの短歌からは「小草」の何が感じられますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 美しさ      イ たくましさ      ウ にぎやかさ      エ みずみずしさ

問八 ④ Gの短歌の「鞭のごと幹ひびきあひ竹群はあり」という表現から感じられるものとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 竹のしなやかさ      イ 竹のたくましさ      ウ 冬のきびしさ      エ 冬のさびしさ

問九 ④ 次の1～4の説明にあてはまる短歌をそれぞれ( )内の数だけさがし、記号で答えなさい。ただし、A～Dの□には、季節を表す二音の言葉が入ります。



- 1 対句法を用いた短歌(1)
- 2 擬人法を用いた短歌(1)
- 3 倒置法を用いた短歌(2)
- 4 「字余り」の短歌(2)

2 16 次の短歌を読んで、後の問いに答えなさい。

- A ふるさとのなまりなつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きにゆく  
石川 啄木
- B 海恋し潮の遠鳴り数へては少女となりし父母の家  
与謝野 晶子
- C 馬鈴薯のうす紫の花に降る雨を思へり都の雨に  
石川 啄木

※なまり…標準語とはちがった、ある地方独特の発音。

※馬鈴薯…じゃがいも。

問一◇ Aの短歌について、次の問いに答えなさい。

- 1 線部「そ」は「それ」という意味ですが、何をさしていますか。五字以上十字以内で短歌中からぬき出して答えなさい。
- 2 作者はどこにいますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。  
ア ふるさとの駅      イ ふるさとを離れた都会の駅  
ウ ふるさとの家      エ ふるさとに向かう電車の中

問二◇ Bの短歌の作者が、この短歌を詠んだときに暮らしていたのはどのようなところですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 海に近いふるさとの両親の家から、遠く離れたところ。  
イ 海のすぐ近くにある、現在も両親のくらししているところ。  
ウ ふるさとの両親の家から遠く離れた、海に近いところ。  
エ 海から遠くはなれた、両親がかつて住んでいたところ。

問三◇ Cの短歌について、次の問いに答えなさい。

- 1 作者はどこで、何を見ていますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。  
ア ふるさとの街で、馬鈴薯の花に降る雨を見ている。  
イ ふるさとの馬鈴薯畑で、雨に打たれる馬鈴薯を見ている。  
ウ 都会の街で、都に降る雨を見ている。  
エ 都会の馬鈴薯畑で、馬鈴薯の花を見ている。
- 2 Cの短歌に使われている表現技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 擬人法      イ 体言止め      ウ 倒置法      エ 比喻(直喩法)

3 16 次の短歌を読んで、その鑑賞文としてふさわしいものを後からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A みちのくの母の命を一目見ん一目みんとぞただにいそげる  
斎藤 茂吉
- B 街をゆき子供の傍を通る時蜜柑の香せり冬がまた来る  
木下 利玄
- C たらちねの母が釣りたる青蚊帳をすがしと寝ねつたるみたれども  
長塚 節
- D 高槻のこずゑにありて頬白のさへづる春となりにけるかも  
島木 赤彦

- ア 久々に帰ってきた故郷で示された心づかいに、安らいでいる様子が伝わる歌である。
- イ 一刻も早く故郷に帰らなければとひたすらに急ぐ、差し迫った様子が伝わる歌である。
- ウ ふとした瞬間に、目には見えないものから季節の訪れを感じた様子が伝わる歌である。
- エ 待ち望んでいた季節の訪れへの、あふれるような喜びを感じた様子が伝わる歌である。



4 12 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ⑥ 次の1～3の言葉の意味としてふさわしいものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 好きこそものの上手なれ
- ア 好きだからこそ、熱心にやり、上達するものだ。
- イ 上手になりたいのならば、まず好きになり努力すべきだ。
- 2 百聞は一見にしかず
- ア 一度見ることは、何度も聞くことにはおよばない。
- イ 何度も聞くことは、一度みることにはおよばない。
- 3 冬来たりなば、春遠からじ
- ア 冬が来ても、春はなかなか来ないでしょう。
- イ 冬が来たなら、春の来るのもおそくはないでしょう。

問二 ⑥ 次の1～3の——線部を《例》にならって、それぞれ( )内の字数で答えなさい。

- 《例》 風とともに去りぬ (三字) 《答え》 去った
- 1 悪銭身につかず (六字)
- 2 急がば回れ (四字)
- 3 芸は身を助く (三字)

5 10 次の——線部を漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなもひらがなで正しく送りなさい。

- 1 父はコツカクがしっかりした人だ。
- 2 ムネを張って意見を発表した。
- 3 七時イコウに家を出る。
- 4 夜空のセイザを見上げる。
- 5 カイコがまゆをつくるのを観察する。
- 6 農業にジュウジする。
- 7 弟はとてもジュンジョウな少年だ。
- 8 弓で矢をイル。
- 9 いすにスワルほうが楽だ。
- 10 明日は雨がフルらしい。